

仕様書

文化市民局文化芸術都市推進室

文 化 芸 術 企 画 課

(担当 中西（努）、中西（智） 電話 222-3119)

件 名	京都市久世ふれあいセンターピアノ保守点検委託
契約期間	契約の日の翌日～令和9年3月31日
契約条件	別紙仕様書のとおり

仕様書

- 1 件 名 京都市久世ふれあいセンターピアノ保守点検委託
- 2 契約期間 契約の日の翌日から令和9年3月31日まで
- 3 一般事項
 - (1) 受注者は、京都市契約事務規則等の関係法規を遵守し、本仕様書に基づき誠実に本業務を履行するものとする。
 - (2) 受注者は、労働安全衛生法を厳守し、本業務を履行するものとする。
 - (3) 本業務履行に伴って建物、設備、工作物等を破損または紛失したときは、受注者がその損害賠償をしなければならない。
 - (4) 本業務履行中の受注者派遣技術者の事故については、すべて受注者の責任において処理し、事故内容及び原因等について速やかに久世ふれあいセンターに報告するものとする。
 - (5) 受注者は、業務上知り得た秘密について、他に漏らしてはならない。
 - (6) 受注者は、保守点検業務終了後、点検結果報告書を作成し、久世ふれあいセンターに提出するものとする。
 - (7) 本業務履行上必要とする次の経費は、受注者が負担する。
 - ア この業務履行上必要な光熱水費
 - イ ピアノに補修、修理等を必要とした場合の経費
 - (8) 本業務履行上必要とする次の経費は、受注者の負担とする。
 - ア 派遣技術者に要する諸経費
 - イ 工具、測定器、その他の材料
 - ウ 薬剤、ウエス等の消耗品
 - エ 点検結果報告書を作成し、報告する経費
 - (9) 本業務履行に際して、受注者はあらかじめ日時等の打ち合わせをし、久世ふれあいセンターの業務に支障のないよう配慮しなければならない。
 - (10) 本業務履行上の細部事項については、久世ふれあいセンターと協議のうえ、決定するものとする。
 - (11) 本仕様書に関し疑義が生じた場合は、そのつど双方協議のうえ決定するものとする。
 - (12) 委託料は1回払とし、本業務完了後に受注者の適法な請求に基づき30日以内に支払うものとする。
 - (13) 本仕様書に掲げる以外の業務の必要が生じた場合は別途契約するものとする。
 - (14) 受注者は本業務の一括再委託をおこなってはならない。

4 保守管理対象ピアノの概要

ヤマハ C7 型 グランドピアノ 1 台

5 技術員の資格

受注者は、ヤマハ株式会社 コンサートピアノ技術者認定の資格を有する技術者を久世ふれあいセンターに派遣し、本仕様書に基づく業務を履行するものとする。

6 業務内容

(1) 受注者は以下の事項に示す調律、保守点検作業を契約期間中に 1 回実施するものとする。

(2) 調律、保守点検作業は、受注者派遣技術者が久世ふれあいセンター内のホールにおいて実施するものとする。

(3) 受注者は、久世ふれあいセンターから臨時に調律の依頼があったとき、またはリハーサル、演奏中の立会要請があったときは、技術者の派遣等について適切に対応するものとする。

なお、調律及び技術者立会等とは別途契約とする。

(4) 受注者は、久世ふれあいセンターから臨時にピアノの故障その他異常の連絡があったときは、速やかに技術員を派遣し、適切な措置を講ずるものとする。

7 保守点検作業内容

(1) 基本調整項目

ア ネジ締め

本体、アクションすべてのネジ締めを行う。

イ フレンジ点検

回転部分の滑らかさを点検する。

ウ ハンマー間隔直し

ハンマーとフレンジの間隔を揃える。

エ ハンマーの走り直し

ハンマーの左右の走りを修正する。

オ ハンマー角度調整

ハンマーの左右角度を調整する。

カ ベッティングスクリュー調整

箴を安定させる。

キ 鍵盤間隔直し

鍵盤の間隔をそろえる。

ク バックチェック合わせ

ハンマーに対しバックチェックの左右、角度を合わせる。

(2) 鍵盤部の調整

ア 鍵盤調整

鍵盤の動きを滑らかにするためバランス、フロントのブッシング及びバランス穴を調整し、ピントの嵌合をスムーズにする。

また、ピンに汚れがある場合は、研磨し除去する。

イ 鍵盤の高さ調整

バランスのパンチングペーパーを加減して、鍵盤を所定の高さに揃える。

ウ 鍵盤の深さ調整

フロントのパンチングペーパーを加減して、鍵盤の沈む深さを 10 ミリに揃える。

(3) アクション部の調整

ア 弦合わせ

ハンマーの打弦を効率よくするため、弦に対しハンマーが正しく打弦するようにハンマーの間隔を揃えながら合わせる。

イ サポート合わせ

シャンクの突き上げに無駄をなくし、またシャンクとセンターピンに不自然な力を掛けないようにするため、ハンマーローラーにサポートの左右を合わせる。

ウ 打弦距離

ハンマーヘッドの先端と打弦点の距離を測定し、キャプスタンスクリューを上下させ、ハンマーの高さを定め揃える。

エ ジャック前後

ジャックがローラーを突き上げるときの力の伝達をできるだけ少なくし、また正常なタッチ(アフタータッチ)の量をつくるため、ローラーの位置を基準にジャックスクリューを回し、ジャック先端の前後位置を定める。

オ ジャック上下

打弦後、ハンマーが元の位置に戻るときにジャックがスムーズにローラーの下に滑り込めるようにするため、ジャックとローラーの隙間を極力少なくし、力の伝達の無駄を少なくする。

ジャックの先端面がレペティションレバーの上面より 0.1～0.2 ミリ程度低くなるように揃える。

カ ハンマー接近

アクションが働いたとき、ハンマーを規定の距離まで弦に近づけるため、レギュレチングボタンを回して上下し、ジャックの脱進によりハンマー先端の弦への接近位置を揃える。

キ ハンマー戻り

ハンマーの戻りの最適な位置を見つけてアクションが敏速に働くようにするため、レペティションレギュレチングスクリューを回し、静かに打弦したときのハンマーの戻り位置を揃える。

ク ハンマーストップ

速く、正確に次の打弦ができるようにするとともに、ハンマーの落下を指に感じないようにするため、打弦して鍵盤を押さえたままのときのハンマーの停止位置とバックチェック前後の位置を調整して揃える。

ケ スプリング調整

ジャックとレペティションレバーが正確に戻るようにするため、打弦してハンマーストップ位置から静かに鍵盤の力を緩めたときのハンマーの上がり具合を見て、レペティションレバースプリングの強さを揃える。

(4) ペダル部分の調整

ア ダンパーの調整

鍵盤を押さえたとき、ダンパーが振動中の弦を完全に解放するとともに、止音が完全に行えるようにするため、鍵盤の沈みとダンパーの動きとの関係を調整する。

イ 総上げ

ダンパーペダルを操作したとき、全てのダンパーが一斉に上下するように揃えることにより、一斉に弦の解放及び止音ができるようにする。

ウ 止音

全体の止音効果を確認するため、止音不良が見受けられたときは、ダンパーの前後左右のワイヤーを曲げ調整する。

エ ダンパーペダル調整

突き上げ棒ナットを調整し、ペダルを踏み込む際にダンパーが一斉に上がるまでに適当な遊びをつくる。また、ペダル作動時に雑音等がないかを確認する。

オ ソステヌートペダル作用時の調整

ソステヌートペダル作用時のみ任意のダンパーが解放されるようにする。作動不良のときは、タブリップと羽の隙間を調整し、タブリップと羽の上下位置を調整する。

カ シフトペダル調整

ペダルを踏み込んだ際の鍵盤箴が滑らかに移動するようにするため、ストップ位置を拍子木のビスで調整する。

また、突き上げ棒袋ナットを調整し、遊びがないようにする。

併せて、ペダルを踏み込んだ際のハンマーの打弦位置の調整をする。

キ 整音

発音される全ての音を最良の音に整え、そのバランスをとるため、発音体であるワイヤーの状態を正し、ハンマーフェルトに張り入れ、整形を行い、ハンマーに適度の弾力を持たせ、音量、音色を整える。

ク 弱音時整音

シフトペダル使用時に発音される全ての音を最良の音に整え、そのバランスを

とるため、ハンマーフェルトに張り入れ、整形を行い、ハンマーに適度の弾力を持たせ、音量、音色を整える。

(5) 調律ピッチ

音律は、基音 $a=440\text{Hz}\sim 443\text{Hz}$ の間にて、久世ふれあいセンターと協議のうえ決定するものとする。

8 提出書類

(1) 点検結果報告書

(2) 完了届